

地盤工学の基礎から調査・設計・施工・防災・環境保全まで地盤に関する幅広い分野の研究に取り組む地盤工学学会(足立紀尚会長)。公共投資の縮小で、学会活動には地域会員や住民に根ざしたよき細かいサービスが要求される中、全会員の約40%が集中する関東地域に、新たな活動拠点となる関東支部が誕生した。初代支部長に就任したのは、元会長で名誉会員の石原研而(けんじ)氏。特別会員増強で安定した運営基盤を構築するため、再び表舞台に立った石原支部長に、自らの役割や活動の方向性などを聞いた。

地盤工学会関東支部長

石原 研而氏



**略歴**  
いしはら・けんじ  
昭和41年東京大学工学部助教授、同52年東京大学工学部教授、平成6年東京大学名誉教授、同年東京理科大学理工学部土木工学科教授、同13年中央大学理工学部土木工学科特任教授、同8年社団法人地盤工学会会長、同9年国際地盤工学会会長、同15年日本地震工学会会長、昭和32年東京大学工学部土木工学科卒

を重視している。「中・高生らに地盤工学への理解を深めてもらうため、文部科学省と連携し、学校教育の中でレクチャーする仕組みを構築したい。若年層の関心が深まることで、将来、土木分野の就労者増加や公共事業に対する住民理解が得やすくなり、業界全体の地位向上や社会貢献につながる」

「高齢からか、副支部長をはじめ、事務局が協力的。組織によっては分裂などがあるようだが、私が関東支部長になったことで、全体の団結力が強まった。スムーズな学会活動と運営が期待できる」

「学協会本部、支部の運営は、特に法人や団体などの特別会員から募る資金が基盤となるが、他の支部に比べ、関東地域の特別会員数は右肩下がりの状況で、学会全体の将来が危ぶまれている。これまで関東には本部のみで、支部がなかったことから、学会活動が全国的で、地域ごとの会員サービスが足りなかった。関東支部の創設により、本部活動とは別に地域に根ざした活動が可能となった」

「支部の役割は、地域ごとに地盤特性を研究し、都市開発などに貢献すること。これまで関東地域では、自治体レベルでの調査研究は個別にあっても、地域全体として総括する機会が少なかった。今後は、特別会員や学生会員を含めた全会員を対象に、講演会や見学会などを開き、行政の壁を越え、関東全域で地盤を捉える共通認識を形成する」

「これらの諸条件から人工造成地が多く、全体的に軟弱で洪水や地盤沈下、地震動増幅など自然災害の影響を受けやすい」

「他の支部同様、地盤工学の観点から調査を進め、解決すべき具体的なテーマを取り上げて議論を深めていく。住民らにセミナーなどを催し、都市化に伴う森林伐採などの自然環境への負荷が、地盤沈下や洪水などの危険性を高めていることを認識してもらうなど、危機管理意識の向上に努めることも役目だ」

「学会の掲げる4本柱のうち、支部長は「社会貢献」と「継続教育」

特別会員増強に尽力

「世間的に見て地盤工学の知名度は低い。支部活動を盛り上げるには、会員だけでなく外部の力が不可欠。奇をてらうのでなく、群馬や栃木、茨城県など地方の自治体、関係団体、関連企業らとの交流を地道に深め、学会の浸透や人脈構築など活動基盤の確立に重点を置く。土台を強固にすることで、持続的発展が望める」

「支部長はこれまで学会会長をはじめ、国際地盤工学会会長、日本地盤工学会会長を務めるなど多くの実績を持つ。支部長就任にあたり、自分ししか出来ない」と自負していることは、

「高年齢からか、副支部長をはじめ、事務局が協力的。組織によっては分裂などがあるようだが、私が関東支部長になったことで、全体の団結力が強まった。スムーズな学会活動と運営が期待できる」

「世間的に見て地盤工学の知名度は低い。支部活動を盛り上げるには、会員だけでなく外部の力が不可欠。奇をてらうのでなく、群馬や栃木、茨城県など地方の自治体、関係団体、関連企業らとの交流を地道に深め、学会の浸透や人脈構築など活動基盤の確立に重点を置く。土台を強固にすることで、持続的発展が望める」

「学協会本部、支部の運営は、特に法人や団体などの特別会員から募る資金が基盤となるが、他の支部に比べ、関東地域の特別会員数は右肩下がりの状況で、学会全体の将来が危ぶまれている。これまで関東には本部のみで、支部がなかったことから、学会活動が全国的で、地域ごとの会員サービスが足りなかった。関東支部の創設により、本部活動とは別に地域に根ざした活動が可能となった」

「支部の役割は、地域ごとに地盤特性を研究し、都市開発などに貢献すること。これまで関東地域では、自治体レベルでの調査研究は個別にあっても、地域全体として総括する機会が少なかった。今後は、特別会員や学生会員を含めた全会員を対象に、講演会や見学会などを開き、行政の壁を越え、関東全域で地盤を捉える共通認識を形成する」

「これらの諸条件から人工造成地が多く、全体的に軟弱で洪水や地盤沈下、地震動増幅など自然災害の影響を受けやすい」

「他の支部同様、地盤工学の観点から調査を進め、解決すべき具体的なテーマを取り上げて議論を深めていく。住民らにセミナーなどを催し、都市化に伴う森林伐採などの自然環境への負荷が、地盤沈下や洪水などの危険性を高めていることを認識してもらうなど、危機管理意識の向上に努めることも役目だ」

「学会の掲げる4本柱のうち、支部長は「社会貢献」と「継続教育」

持続的発展へ 活動基盤確立

「世間的に見て地盤工学の知名度は低い。支部活動を盛り上げるには、会員だけでなく外部の力が不可欠。奇をてらうのでなく、群馬や栃木、茨城県など地方の自治体、関係団体、関連企業らとの交流を地道に深め、学会の浸透や人脈構築など活動基盤の確立に重点を置く。土台を強固にすることで、持続的発展が望める」

「学協会本部、支部の運営は、特に法人や団体などの特別会員から募る資金が基盤となるが、他の支部に比べ、関東地域の特別会員数は右肩下がりの状況で、学会全体の将来が危ぶまれている。これまで関東には本部のみで、支部がなかったことから、学会活動が全国的で、地域ごとの会員サービスが足りなかった。関東支部の創設により、本部活動とは別に地域に根ざした活動が可能となった」

「支部の役割は、地域ごとに地盤特性を研究し、都市開発などに貢献すること。これまで関東地域では、自治体レベルでの調査研究は個別にあっても、地域全体として総括する機会が少なかった。今後は、特別会員や学生会員を含めた全会員を対象に、講演会や見学会などを開き、行政の壁を越え、関東全域で地盤を捉える共通認識を形成する」

「これらの諸条件から人工造成地が多く、全体的に軟弱で洪水や地盤沈下、地震動増幅など自然災害の影響を受けやすい」

「他の支部同様、地盤工学の観点から調査を進め、解決すべき具体的なテーマを取り上げて議論を深めていく。住民らにセミナーなどを催し、都市化に伴う森林伐採などの自然環境への負荷が、地盤沈下や洪水などの危険性を高めていることを認識してもらうなど、危機管理意識の向上に努めることも役目だ」

「学会の掲げる4本柱のうち、支部長は「社会貢献」と「継続教育」

石原研市 地盤工学学会関東支部長

インタビュー

地盤力学の基礎から調査・設計・施工、防災・環境保全まで地盤に関する幅広い分野の研究に取り組む地盤工学学会(足立昭尚会長)。公共投資の縮小で、学会活動には地域会員や住民に根ざしたよりきめ細かいサービスが要求される中、全会員の約四〇％が集中する関東地域に、新たな活動拠点を設けた。初代支部長に就任したのは、元会長で名誉会員の石原研市(東京大学名誉教授)。特別会員増強で安定した運営基盤を構築するため、再び表舞台に立った石原支部長に、自らの役割や活動の方向性などを聞いた。



「中・高生らに地盤工学への理解を深めてもらうため、文部科学省と連携し、学校教育の中でレクチャーする仕組みを構築したい。若年層の関心を高めるには、火山△層と言われるように、火山灰が多いのも特徴だ」

「支部の役割は、地域ごとに地盤特性を研究し、都市開発などに貢献すること。これまで関東地域では、自治体レベルでの調査研究は個別にあっても、地域全体として総括

特別会員増強に尽力

「学会本部、支部の運営は、特に法人や団体などの特別会員から募る資金が基盤となるが、他の支部に比べ、関東地域の特別会員数は右肩下りの状況で、学会全体の将来が危ぶまれている。これまで関東には本部のみで、支部がなかったことから、学会活動が全国一律的で、地域ごとの会員サービスが足りなかった。関東支部の創設により、本部活動とは別に地域に根ざした活動が可能となった」

「関東地域の地盤特性と

その難点は。 「西方の武蔵野台地を削って出来た多くの溪谷が東方の

造成地が多く、全体的に軟弱で洪水や地盤沈下、地震動増幅など自然災害の影響を受けやすい」

「他の支部同様、地盤工学の観点から調査を進め、解決

持続的発展へ活動基盤確立

「世間的に見て地盤工学の知名度は低い。支部活動を盛り上げるには、会員だけでなく外部の力が不可欠。奇をてらうのではなく、群馬や栃木、茨城県など地方の自治体、関係団体、関連企業らとの交流を地道に深め、学会の浸透や人脈構築など活動基盤の確立に重点を置く。土台を強固にする中で、持続的発展が望める」

いしはら・けんじ…昭和41年東京大学工学部助教、同52年東京大学工学部教授、平成6年東京大学名誉教授、同年東京理科大学理工学部土木工学科教授、同13年中央大学理工学部土木工学科特任教授、同8年社団法人地盤工学学会会長、同9年国際地盤工学学会会長、同15年日本地震工学学会会長、昭和32年東京大学工学部土木工学科卒

委員会などを通じて、専門技術者らに随時提供し、知識蓄積に努める。論文公表の機会も多く設け、研究者らの情報交換を促進する」

「初代支部長としての目標は、」